

令和7年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 聖徳園	代表者	三上 美知恵 理事長	法人・ 事業所 の特徴	敷地内には同法人が運営するグループホーム、こども園、母子生活支援施設、児童家庭支援センター、ふくい妊産婦支援センターがある。それぞれの事業所を利用している子どもや保護者と日常的に交流を行っており、利用者の楽しみや生きがいとなっている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あわら聖徳園	管理者	前川 典雅		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	3 人	人	5 人	1 人	2 人	人	人	4 人	人	15 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	1. できるだけ利用開始までに必要な情報を得るために初診の問診票などの様な設問シートに家族に記入してもらってはどうか。 → 初対面では聞きにくい事や家族も信頼関係が出来てない人へ言いたくない情報もある、など難しい点が多い。いろいろな人が関わることで、徐々に急かさず必要な情報を得て共有していくようにする。 2. ・目標を前川 CM と担当者が相談して決める。 ・月々の担当者会議の記録をスタッフ全員が 目を通せるようにする。目標の共有をする。 3. ライフサポートプランを更新時だけでなく、定期的に確認する。自宅での生活環境や趣味趣向の話を聞いたらライフサポートプランに書き込むようにする。 4. 利用者との会話の中で普段の過ごし方について聞くようにし、	1. 万遍なくスタッフが関わり、情報（話）を聞くように意識付けができた。知り得た情報で気になったことはミーティング等で情報共有している。 2. 目標決めについて、ケアマネと担当者で十分検討とまではできていない。担当者ケア会議で話し合われた内容は報告書にまとめ、共有している。 3. 関わりの中で生活環境や趣味趣向の話を聞くことはできているが、ライフサポートプランに書き込まれていない。 4. 記録でも残し、ミーティングでも共有している。 5. スタッフのゆとりがある時は訪問業務をかたよらないようにした。 6. 地域会議への参加出来ず。会議開催の有無自体不明だった。	・少数精鋭で、サービスは出来ているのではないかと感じる。責任や業務量に応じて、評価や対価が得られると良いと思う。 ・6の連携・協力での自己評価が低いので、時間的との協働が課題の評価が出ている。	1, ・初回面談時に確認しておきたいことの項目をまとめておき、どのスタッフでも漏れなく本人や家族に聞けるようにする。 ・まもる君の申し送り欄に共有したい情報を入れる 2, ・当面の目標「～したいこと」について、進捗状況を毎月確認する。 3, ・ご利用者に対するかかわり方や気付きを大切にするなど、担当職員に変化があったことを伝え、担当職員が記入していく。 4, ・プライバシーもあるので職員一人一人が一对一に関わり、普段の会話からその人について知っていく。 5, ・事業としての多機能化に努め、他事業とも協力しながら、利用者や家族に信頼がおける事業所を目指していく。

	介護記録にも残すようにして職員間で共有する。 5. 日々の訪問対応が多く、訪問業務に時間がかかってしまうので、職員は、焦らずに気持ちのゆとりが持てるように支援していく。 6. 聖徳園全体で地域の会議に向けるような計画を立てていく。 7. 地域に聖徳園をアピールできるように考えていく。見えるところに看板を設置するなど。 8. ・リスクマネジメントの勉強会を継続し、理解度に統一性を持つ。 ・外部研修など、学んだ研修に対しての伝達講習などを取り入れて情報共有していけるようにする。 9. 職員がどうしてもご利用者のことを話さないといけないときは、急いでいても落ち着いて、プライバシーを守れるように配慮して話をするなど。	7. 看板設置はできていないが、いきいきサロン等を通じて、地域の中で聖徳園をアピールしている。 8. 伝達はできていないが、文書にして回覧している。 9. プライバシーを守れるよう、カーテンを使うなど、配慮に取り組んでいる。		6, いきいきサロンを通し、地域包括支援センターの方を講師として招き入れる企画を立てたらどうか検討する。 7, 来期の地区の年間行事を頂き、各行事に向けて参加の可否を決定し、参加していく。 8, ヒヤリハットの報告を意識して積極的に出すようにする。 9, プライバシーに配慮して声掛けを行う。(排泄誘導の時など)
B. 事業所の しつらえ・環境	・いきいきサロンを利用し、高齢者施設を見てもらったり、相談してもらったりする機会や雰囲気づくりをする。	地域の方で、いきいきサロンのチラシを見て相談に来られた方もおられ、宅配を頼んであげたり対応している。 施設内を見てもらうチャンスはなかったが、手作りのゴミ入れなど寄付してくださる方もおられる。	サロンを通じて、地域の方との繋がりが生まれていること等、とてもよいと思う。 地域の方に対する施設見学は、プライバシーの問題もあり、慎重に対応すべきと思う。 利用を考えている人だけが見学するのかという問いに対して、そ	利用を考えている人ばかりでなく、プライバシーを守りながらも、気軽に施設見学してもらえるようにしていく。

			うではない。 駐車場が狭く、路上駐車をするに 人がいないのかが懸念される。	
C. 事業所と地域のかかわり	前回の改善計画が職員の人手不足もあり、実行が難しかったため、高齢者が集まる場所づくりの起点となるよう進めていく。	いきいきサロンに参加される方からは、「毎年、サロンで集まるのが楽しみ。」と、喜ばれているなど、居心地の良い、場所づくりを行っている。	利用しやすい場所として毎年改善されている。 地域の貴重な場所として、今後もサロン活動を続けていってほしいと思う。	サロンの活動の継続と、内容の充実など、高齢者が集まる場所づくりを進めていく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	例えば、丸岡春祭りとかの祭りや行事に参加していく（花見なども含めて）。 ・サービス担当者会議などの参加の声かけ（区長や民生委員など）	地域の夏祭りには参加出来た。サービス担当者会議には、区長や民生委員を呼ぶことは出来ていない。全員ではないが、今の状況について、ご意見を頂戴することは出来ている。	地域とのつながりは持っていて、夏祭り等の参加も見られる。ただ、地域の防災訓練に参加するなど、機会があると良い。	利用者と地域に出向く機会を増やしていく。 難しいケースについて、必要に応じて担当者会議などの会議に参加してもらえるようにしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ゴミの問題など、地域の問題を出して行って、現状をわかってもらう。改善することあれば、教えてもらう。	運営推進会議で議題に挙げた件については、改善案をいただいている。	毎回問題提起があり、解決に向けての話し合いがなされている。地域の考え方と事業所の考え方には多少はギャップはあると思うが、折衷案をとるなど、各所との連携が重要である。	専門用語等を使わずに、議題に出す内容など、丁寧に説明し、地域の問題点や解決策などを、行政や地域の人と一緒に解決できるようにしていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	・地域との連携を続け、組織図をもとに災害時のシュミレーション等の確認をしていく。	・BCP の内部研修は年 2 回実施しているし、災害など、避難訓練も適宜実施している。 ・災害に備えて、自家発電機の設置を予定している。	計画は継続されていると思うが、事業所単独で長期間自活しなければいけないと考えると、水や食料などの備蓄はとても重要である。	B C P の訓練の中で、発電機の確認方法や、携帯電話の充電やタブレットの充電等も含めた訓練を実施していく。
----------------------------	---	--	---	---